

# 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

## 記

1. 講 師 岩手医科大学 歯学部 補綴・インプラント学講座  
教授 近藤 尚知 先生
2. 演 題 インプラントの長期予後を獲得するための補綴装置  
の要件
3. 日 時 平成27年6月18日(木) 17:00～18:30
4. 場 所 歯学部4階特別講堂
5. 抄 録

1986年に、Brånemark博士がはじめて臨床応用を開始した近代インプラント補綴は、下顎無歯顎に対する固定性の補綴装置(ボーンアンカー・ブリッジ)であったが、現在のデンタルインプラントは、一歯欠損から無歯顎にまで適用可能な治療法であり、多くのエビデンスによって予知性の高い補綴治療であることが証明されている。インプラントとその上部構造の長期安定性を獲得するために考慮すべき点は、インプラントの種類・本数・サイズ、上部構造の種類と材質、そしてクリアランス・咬合接触様式等である。さらには、周囲支持組織の安定を考慮した清掃性も必須項目である。そして、これらの全てが、装着後に起こり得る上部構造の破折と摩耗および対合歯の咬合性外傷や破折の頻度を最小限に抑えるために配慮されるべき要件であり、術前から検討されるべきものである。本講演においては、上記内容はもとより、近年大きく発展したセラミック系歯科材料のインプラント上部構造への応用、付与すべき咬合接触様式、光学印象法などについても考察する。

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)